

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2991000015		
法人名	メディカルケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム香芝 (青空ユニット)		
所在地	奈良県香芝市五位堂 1丁目341-1		
自己評価作成日	平成26年1月10日	評価結果市町村受理日	平成26年5月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kanji=true&JigyosyoCd=2991000015-00&PrefCd=29&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成26年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特に力を入れている点は、専任の調理スタッフによる毎食手作りの料理。お客様の状況に合わせ形態を工夫したり、好みの食材に変更も行っていきます。出来る限り、食べる意欲を持って1日でも長くご自分で召し上がっていただけるよう、看護師・調理士・介護士が情報を共有し試行錯誤しながら提供しています。
 アピールしたい点は、建物は平屋作りの両ユニット間の行き来は自由。毎朝ラジオ体操や夕方には音楽に合わせ合同で体操を行っています。2台ある車両(1台は福祉車両)を使い、近くのスーパーへ買出しや季節ごとにドライブを楽しんだり、ピクニックや花見をします。個別の外出支援も行っています。ご本人やご家族に伺い、回転寿司や水族館・自宅への一時帰宅も支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者にとってその人らしい暮らしができるよう支援することを大切に考え、今年度は「有言実行」をホームビジョンとし利用者とのコミュニケーションを多く取り個々の思いややりたいこと、これまでの暮らし方を知り、その実現に向けて個別外出やホームでの過ごし方を職員間で話し合い実践に繋げています。利用者の生活習慣を知り、読書好きな方と図書館に通ったり、自宅の郵便物が気になる方と自宅を見に行く等の支援をしています。また、日常的に外に出る機会を作ったり玄関の開錠にも取り組み、職員の温かな見守りと連携の中で利用者の自由な暮らしを支援しています。重度化がみられた時や終末期には医師が状態を説明し、家族の意向や協力、支援体制を整えたうえで介護計画を再度作成し、看護職員や管理者がリーダーシップを発揮し職員間はチームワーク良く支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内で研修を行い、朝礼でも運営理念の唱和を行い、全職員が意識し実践できるよう心がけている。	その人らしい暮らしや心を込めたサービス、地域の人々とのふれあいを謳う法人の運営理念を基に、理念を実践していけるよう今年度のホームビジョンを「有言実行」としています。個々の利用者の思いを大切に支援することを心がけ、外出等出来る限り希望を叶えられるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアや保育園との交流は定期的にあります。地域の方から農作物を頂いたり、近隣に住むご友人がホームへ遊びにいらっしゃることもあります。	近くに幼稚園や小学校があり通園・通学の際にホーム前を通る子どもたちと挨拶を交わしています。近隣の保育園がホームのための運動会を行ってくれたり、音楽や大正琴等のボランティアの来訪があり、交流を図っています。今後、地域との交流を深めていきたいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族に向けて「認知症サポーター研修」を実施。今後は地域に向け発信し、市とも連携しながら認知症の理解に努めていきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で受けた要望やアドバイスは、ご利用者様の個別の外出支援や行事の開催につなげています。	運営推進会議は、家族や市職員等の参加を得て隔月に開催しています。2か月間の利用者の様子を多くの写真を見てもらいながら伝えたり、職員の出席した講演会や研修の報告を兼ねて情報の提供等を行っています。地域の方の参加が得られにくく、今後の課題としています。	地域の方に会議に参加してもらえるよう、ホームや運営推進会議への理解が得られるような働きかけや、近隣の地域の方の参加等を検討されてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホーム内の様々な変化や変更については、事前に相談・報告を行い、連絡を密にしています。	運営推進会議に市職員の出席があり、毎月役所に出向き報告等を行う等、ホームの実情を知ってもらっています。市の主催の連絡会や研修に参加したり、看取りの支援についての相談や報告を行う等、日頃から連絡を取り合っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」についての研修を実施。正しい情報・知識を学ぶと共に身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束をしないケアについて、言葉による行動の制止も含めてホーム内で研修を行っています。玄関は施錠をしていましたが、利用者のやりたい事などを意識して見て支援していくために職員間で話し合いを重ねた結果、開錠が実現しています。利用者の行動を見守り、寄り添うケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止」についての研修を実施。正しい情報・知識を学ぶと共に虐待が見過ごされる事のないよう注意し、防止にも努めています。		

愛の家グループホーム香芝(青空)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者として、成年後見制度について学ぶ機会はあるが、職員に浸透できていない。個々に必要性がある場合は支援を行うことはできる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	都度疑問点や質問を確認しながら説明している。理解や同意が得られるまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度、ご家族様アンケートを実施。フリーコメントでご要望やアドバイスをいただき改善を行っている。	毎月利用者の様子を個別に手紙を送り、面会時や電話をかけた時にコミュニケーションを取り、意見や要望を聞いています。カーテンの洗濯等の出された意見はサービスの向上に活かしています。また、年に一度アンケートを実施し、結果を集計するとともに職員間で話し合い、意見を活かしたホームの取り組みを検討しています。アンケート結果等はホームの玄関に掲示しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや全体会議、日々の引継ぎの中で意見や情報を共有し、具体的な対策に活かしている。	基本的に毎月2ユニット合同で職員会議を行い、意見を出し合う機会があります。利用者の状況に合わせて職員の対応を検討したり、業務改善を行っています。行事は毎月担当職員を変え意見や提案を出せるようにしたり、年に一度は個別面談を行い意見や思いを聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々のアイデアや提案は、全職員で協力し実践につなげるよう努めている。研修の実施も行っている。個々が提供したいケアを考え実践できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人向け研修やホーム内研修を行い、学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所と合同で研修を実施したり、他ホームへ利用者様と訪問した。他サービス事業者が現場研修に訪れる機会も設けている。		

愛の家グループホーム香芝(青空)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の言葉や行動に寄り添い、何に不安を感じ何に安心されるかを関わる全職員で記録や引継ぎをしながら情報共有に努め、混乱を出来る限り招かない関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族には出来る限り情報を提供いただき、自宅での過ごし方を伺います。ご家族が望まれるサービスの内容を具体的に提案できる話し合いを出来るよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」必要な望まれるサービスの提供に努めている。(医療との連携は特に慎重に行う)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人がこれまでの生活習慣で養われたものは、出来る限り発揮していただけるよう他の利用者様との関係も含め、職員が配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には、最もご本人を理解される存在として、入居後も相談・報告を心がけ、一緒に支えていただきながらご家族の支援にも努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や関係が途切れないよう支援に努めているが一部である。	近隣の友人の来訪があった時にはゆっくり過ごしてもらったり、よく行っていたスーパーへの買い物など、馴染みの人や場を大切に支援しています。利用者の生活習慣を知り、図書館に少人数で出かけたり、パチンコに行ったこともあります。また、自宅の郵便物が気になる利用者や自宅を見に行く等、思いこそった支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が日々の生活の中で、それぞれの人格に配慮しながら、利用者様同士の関係を支援している。		

愛の家グループホーム香芝(青空)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日常生活全般において、些細な事でも相談・報告に努め、これまでのサービスの利用においても関係を断ち切らないよう工夫している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様にも協力いただき、過去の暮らし方や様子を教えていただき、ご本人の意向に任せる場面を作るよう工夫している。	入居時には本人や家族から生活歴や思いを直接聞き、入居後は日常の会話や表情、知り得た生活習慣等から、どのような暮らしがしたいのかを把握しています。カンファレンスで職員間で検討し、情報を共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅の様子を見せていただいたり、ご家族にお願いし、情報の提供を书面で頂く等し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の役割や個別の記録、引継ぎで状態・状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで現状に即した介護計画か話し合い、ご本人にとってより良いものとなるよう努めている。	アセスメントを基に担当者会議を行い、本人の思いや家族の意向にそった介護計画を作成しています。3ヶ月毎に計画の評価を行い、状況の変化がない時は6ヶ月毎に再アセスメントを行い、見直しを行っています。見直しにあたっては、家族に意向を確認し医療情報についての情報を得て、会議で検討しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は出来ている、気づきに関する情報を更に量を増やし介護計画に活かせるよう現在取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族に相談し様々な提案をしながら、ご本人にとってより良いサービスの提供が実施できるよう取り組んでいる。多機能を目指している。		

愛の家グループホーム香芝(青空)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用しながら、お一人お一人の暮らしを豊かに楽しく過ごしていただく為の工夫は行っているが、まだまだ出来ることがある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族に希望を尊重し、往診医と相談しながら早期適切な対応が受けられるよう支援している。	今までの主治医の継続を勧めていますが、協力医との連携等の情報から殆どの方が協力医に変更しています。毎週協力医の来訪があり、利用者は2週間に一度診察を受けています。職員に看護師がおり日々の健康管理を行い、夜間等24時間協力医に相談できる体制を整えています。受診は基本的に家族と一緒にいき、ホームでは送迎や緊急時、皮膚科等の受診の支援をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	カンファレンスや記録で情報の共有、直接申し送るなどし、個々の状態に合わせ適切に受診・服薬の指示が得られるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院については、個々の状態や経過をご家族様と共有・理解いただきながら医療との連携、フォローに出来る範囲で対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と話し合い、事業所で出来る範囲をお伝えし、書面で明確に説明した上で了承の下、全職員で支援に取り組んでいる。	入居時に重度化になった場合に対応できること等のホームの方針について説明をしています。重度化や終末期については、医師が診断し状態を説明し、家族の協力や看取りの支援体制が整えば、介護計画を再度作成し方針を共有し支援しています。看護職員や管理者がリーダーシップを発揮し、職員間でチームワーク良く取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の連絡体制、対応については状況に応じ、医療従事者へ指示を仰ぐよう周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練実施。地域の防災訓練にも参加している。全職員がAEDや消火器の使用について訓練を受けている。	年に2回の消防訓練には消防署の協力の下行われ、昼夜を想定し通報や初期消火、避難誘導等の訓練を実施しています。地域の方にも訓練の参加への働きかけを行った結果参加は得られませんが、地域の防災訓練に利用者と一緒に参加したり運営推進会議で話しています。また、3日分ほどの備蓄も用意しています。	

愛の家グループホーム香芝(青空)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を知り、プライバシーに配慮した言葉かけを心がけて対応している。	職員は入職時に接遇・マナーの研修を受け、尊厳やプライバシーを守る対応を学んでいます。毎月自己評価を行い、自身の行動や対応を振り返る機会を作っています。利用者の分かりやすい呼び名や言葉遣いを用いて話しかけるよう配慮し、家族とも相談しながら対応しています。不適切な対応があればその都度注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人へ確認しながら、言葉だけでなく表情や仕草で思いを汲み取れるよう、働きかけるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日に職員同士で話し合い、お一人お一人の様子に合わせ、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の使用されていた化粧品や洋服など提供いただき、ご自身で出来る限り準備いただけるよう見守っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人お一人の好みのメニューを提供を心がけている。ご家族様にもご理解いただけるよう相談・報告に努めている。 食事支度への関わりが継続できていない。	法人の管理栄養士の立てた献立を基に、食材を発注し担当職員が食事作りをしています。時には自由調理の日を設け食べたいものを利用者と考え、買い物から利用者と一緒に食事作りを楽しんだり、寿司などの外食に行くこともあります。朝食のみそ汁作り、片付け等のできる事に利用者は携わっています。職員も同じテーブルに着き一緒に食べ、食事を楽しめるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量については、個々に記録している。体重の変動やその日の状況 前後の日も含め情報共有しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後、就寝前にはお一人お一人に合わせた口腔内の清潔保持を行っている。ご家族様にも相談し、歯科医と連携している。		

愛の家グループホーム香芝(青空)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状況に合わせ、一日の中でも状況により使用方法を話し合いながら変更し、個別の支援を行っている。	排泄のチェック表を用いて利用者のパターンを把握し、個々のリズムや誘導の方法に合わせて支援しています。日々の様子を申し送りで伝えたり、カンファレンスで話し合いながらその人に合った紙パンツやパッド等を選んでいきます。夜間ポータブルトイレを利用する等、自立に向かうよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物や飲み物で工夫し、医師・看護師とも連携しながら個々に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ケアプランにも加え、ご本人の希望やタイミングに合わせて入浴が出来ている。曜日や時間帯もご本人に都度了承いただき実施している。	週に2回を目途に希望を聞きながら入浴できるよう支援しています。毎日の入浴や夜間入浴も希望があれば、体制を整え対応しています。毎回湯を入れ換え、時には入浴剤を使用しながら気持ち良く入ってもらっています。入浴後にノンアルコールを楽しみにしている方もいます。また、拒否される方には時間や人を変えたり、言葉かけを工夫しながら入ってもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の状況に合わせ、ケアプランでも全職員が様子観察に努め、		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師・薬剤師の指示の下、状況や薬剤情報の変更がある都度、支援方法や情報の理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割として洗濯物や食事作り、掃除にも積極的に関わっていただけるよう工夫している。個々の趣味や楽しみに合わせ、図書館・買い物・畑作業・日曜大工・散歩を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の会話の中やご家族様からのアドバイスも頂きながら個別の外出は実施できている。ご家族様にもご理解いただき、ご本人の希望される場所に出かける機会を心がけている。	毎日散歩に出かけたり、洗濯物干しや玄関先の掃除は利用者も一緒に行い、外気に触れる機会を日常的に作っています。個別の希望にそって奈良公園や四天王寺等に行ったり、季節毎の花見や初詣等にも出かけています。機械浴のある施設を貸し切り、食事と入浴を楽しみに出かけた際には、家族の協力も得られています。	

愛の家グループホーム香芝(青空)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出支援の中で、個人で支払いをお願いしている。散歩の途中でも自販機を使う機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に寄り添えるよう、ご家族にも協力いただきながら電話や手紙 写真などでやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロア内には季節や日時が分かる物、一日の状況(天候や・気温)にも注意し、皆様が居心地が良い空間作りに日々努めている。	共用空間には食卓以外にも座れるところを多く作るため、椅子やソファ等を設置したり、和室には座イスやこたつを置いています。のれんや壁飾り等はフェルト等で手作りし、温かい家庭的な雰囲気があります。毎日掃除を行い、加湿器や空気清浄機を置き感染予防に努めるとともに気持ち良く過ごせるよう配慮しています。時には生花を飾ったり、雛人形など季節の飾りを置き季節を感じてもらっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中には、個々が座りやすい椅子やソファの配置、個室を整え工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前や入居後も様子をお伝えしながら、ご本人の馴染みや好みに合わせ環境を整えるよう配慮している。	使い慣れた馴染みのものを持って来てもらうよう説明しています。テレビや椅子、テーブル、鏡台等を置いたり、仏壇や家族の写真を飾り安心して過ごせるようにしています。ラジオを持って来られ夏には居室で野球中継を楽しんでいる方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置や共有スペースの利用時には、ご本人が過ごしたい形で過ごし生活が送れるよう、状況に合わせて工夫している。		